

先日、「120822 南河内の山（里山）に咲く花」の中で、大和葛城山頂付近やその他の南河内エリアで撮影した“野草の花”を紹介したのですが、今回はその中から、「花を訪れる蝶」を捉えた写真をお届けします。

◆写真①： 「コオニユリ」の花を訪れた「キアゲハ」

- ◇大和葛城山頂付近の明るい草原には、「キアゲハ」がたくさん飛んでいました。
- ◇その中には、羽の一部にオレンジ色の模様があり、別種かと思うような個体もいましたが、「コオニユリ」を吸蜜する際に花粉が付着したことがわかりました。

◆写真②： 「オミナエシ」の花を訪れた「ベニシジミ」

- ◇黄色とオレンジ色とがよくマッチしていますね。

◆写真③： 「ツリガネニンジン」の花を訪れた「イチモンジセセリ」

- ◇この花には“釣鐘”の中に「雄しべ」が5本、“釣鐘”の外に飛び出した長い「雌しべ」が1本あります。
- ◇そして、自家受粉を避けるために雄しべが先に成熟して花粉を出し、その後に雌しべが成熟するという“時間差攻撃”？の能力を取得しているのです。
- ◇最初、雌しべは“こん棒”のような形状ですが、成熟するとその先端が三つに割れます。（写真の花は、雌しべの先が割れているのがわかりますね。）

◆写真④： 「カワラナデシコ」の花を訪れた「キアゲハ」に…(@\_@)

- ◇吸蜜している個体に、別個体が攻撃を仕掛けたようです…
- ◇この種は標高 2,000m くらいの山の頂上付近で飛んでいることもあります。  
（ナミアゲハは平地で見ることが多いです）
- ◇ここ（大和葛城山頂）では、数匹がなわばり争いしていましたが、♀個体が山頂に上がってきたときに交尾できるよう、♂同士がなわばり争いをしているのです。

◆写真⑤： 「カワラナデシコ」の花を訪れた「ツマグロヒョウモン♂」

- ◇羽がかなり傷んでいますが、この種も、同種同士のみならず、先の「キアゲハ」ともなわばり争いをしているからでしょうね…
- ◇この種や「キアゲハ」のように、山頂で占有行動をとることを「山地占有性」と言います。

◆写真⑥： 「ヤマニガナ」の花を訪れた「キアゲハ」

- ◇あまり目立たない花ですが、「キアゲハ」はいろいろな花を訪れていました。

◆写真⑦： 「ハギ（マルバハギ）」の花を訪れた「セイヨウミツバチ」

◆写真⑧： 「ハギ（マルバハギ）」の花を訪れた「クロマルハナバチ」

◆写真⑨： 「ハギ（マルバハギ）」の花を訪れた「トラマルハナバチ」

◆写真⑩： 「ハギ（マルバハギ）」の花を訪れた「イチモンジセセリ」

◆写真⑪： 「ススキ」の花穂（尾花 = 秋の七草の一つ） ※ 背景は金剛山頂









































